文：大頭眞一　　和紙ちぎり絵：森住ゆき

こどものための神のものがたり

2024 年 9 月 20 日刊行予定

サイズ 245 × 210mm・28 頁・定価 1,100 円
1000 円＋税　ISBN978-4-911054-30-7　C0016

作者の言葉から

おとなになったぼくが書きたかった本があります。それは、ぼくがこどもだったころに読んでいたら、もっと早く神さまだいすきになっていただろうなーと思える本。おともだちの森住ゆきさんに話してみると、「おもしろそうだ、やってみよう」ということになり、もう一人のおともだちでＣLC からしだね書店の坂岡恵さんが手伝ってくれました。そこに、これもおもしろ好きのヨベル安田正人社長が加わってくださり、この本ができました。この本を通して、こどももおとなも、もっと神さまがだいすきになったら、ぼくたちはそれこそうちょうてんです。

主が彼らをそこから地の全面に散らされたので、彼らはその町を建てるのをやめた。　創世記 11 章 8 節

1 天まで届く高い塔。でも、それを見た神さまが驚いてこなければならなかったのは皮肉ですね。けれども人間たちにとって、それはたいへんな事件でした。

2 若者たちは一致して協力することによって、事事的、経済的な安定を得ようとしました。神さまの眼の中でいきるのではなく

3 ところが、人間のつくる秩序、規模、機動は、人間を画一化し、歯車のようにしてしまうでしょう。人間じゃない人間をつくってしまうのです。

4 ほんとうの「敬と信頼」ベンコフスキの言葉にしましたが、聖書による「敬と信頼」神さまの眼の中で生きいきと、敬と信頼である。

子どもだけのための神のものがたり

バベルのとう

神さまは心配だった
バベルの塔で大工事が始まったから
えらい人たちが　みんなを働かせた
農家のひとも　職人さんも
すると
食べるものが足りなくなってきた
靴や着物も足りなくなってきた
みんなは怒りっぽくなってきた
ある日など
高い塔から落ちて
死んでしまった人もでた
神さまは悲しかった
もうおしまいにしよう、そう思った
ある朝
みんなはえらい人がなにを言っているか
わからなくなった
それでみんなは、
自分のしごとにかえって行った

プロフィール

文：大頭眞一（おおず・しんいち）
京都信愛教会（京都市北区）と明野キリスト教会（京都府八幡市）牧師。神戸生まれ。妻と娘一人（今は天に）の３人家族です。25 才で主イエスを信じてほんとうによかったと思っています。特技はお好み焼き。

和紙ちぎり絵：森住ゆき（もりずみ・ゆき）
和紙の豊かな繊維質を活かし、指でちぎって糊で貼って作画しています。神さまのゆるぎない愛を伝えるこの 12 の物語は、大人になってしまった私自身もまた大きな励ましを受けつつ制作しました。

ＣＬＣからしだね書店　坂岡 恵店長（さかおか・めぐみ）
CLC からしだね書店は、京都にある「からしだねワークス（就労継続支援Ｂ型事業所）」が、障がいのある方たちと一緒に営んでいるキリスト教書店です。毎月発行している書店だよりの連載が本になり、大喜びです。

装丁・ブックデザイン：西川 加世子（にしかわ・かよこ）
からしだねワークスで、冊子やチラシのデザインの仕事をしています。ひとりでも多くの子どもたちのもとに届きますようにと祈りながら、お手伝いさせていただきました。

発行：CLC からしだね書店　発売：ヨベル　*YOBEL Inc.* 〒 113-0033　東京都文京区本郷４- １- １　T 03-3818-4851　F 03-3818-4858